

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
訪問調査日	平成19年12月5日
評価確定日	平成20年1月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371 (電話) 0995-74-1488
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 11年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~15,500 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗野病院、上原歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな農村地域に位置し、ホーム周辺の畑に植えられた農作物によって、季節の移り変わりを感じることができる。また、同一法人の特別養護老人ホームが隣接しており、施設利用者との交流や地域住民とのふれあいの機会を通し、地域との関係を大切にしている。ホーム内での生活は、入居者の意思が尊重され、職員よりも入居者の方がリーダーシップを発揮する生活場面が随所に見受けられる。また、居室は入居者それぞれの趣味や好みなどが一目でわかるような装飾品や家具があり、個性豊かなものとなっている。職員、入居者共に、笑顔が多く見られるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①運営理念の啓発...地域行事に参加した際や近隣住民とのふれあいの中で、ホームについて趣旨や内容を説明する機会を設け、アピールに取り組んでいる。②食事を楽しむ支援...職員と入居者が同じ時間に同じ場所で食事をとることについては実施されているが、同じ物を食べることにについては、今後の課題として残る③緊急時の手当...実技を伴った研修を行い、全職員が対応できるよう取り組んでいる。④注意の必要な物品の保管...台所用洗剤の誤飲による事故を防ぐため、鍵のある棚へ保管している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で自己評価に取り組み、改めて自己評価や外部評価の意義を確認している。また、ミーティング時に、今後の取り組みについて具体的実施内容を話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの取り組み状況と地域の高齢者の動向等が報告され、今後のホームの在り方について話し合われている。開催回数が少ないため、今後さらに積極的な開催と活発な意見交換により、会議が意義あるものとなるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、ご家族からの意見や苦情等を受けている。また、面会時には必ず希望や要望がないか確認し、いただいた意見に対しては全て職員ミーティングにて話し合いがなされ、全ご家族へ結果をフィードバックしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の行事を中心に、地域住民との交流も図られている。また、日常においては、散歩時に農作業をしている方へ声をかけ会話する機会を持ったり、隣接する施設の利用者とお互いに行き来して交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内で同じ目的を持ち、同じ方向に進むよう3つの理念を掲げている。その中で、自立支援と地域生活の継続支援、地域住民を含めた幸福を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内はもちろん、事務室内にも理念を掲示し、常に理念を確認して自己のケアを振り返ることができるようにしている。また、日常の関わりの中で管理者が理念を基にした言葉掛けや態度ができてきているかを確認し、指導するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の地域行事には、入居者の状態を見ながら積極的に参加するようにしている。また、小学校の行事に参加する機会を多く持ち、運動会には入居者も一緒に参加できる競技を検討していただくなどして、共に楽しめるよう工夫している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価についての意義・目的を介護主任より職員へ伝え、全職員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果については、改善課題をミーティングで話し合い、今後の取り組みを検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議が設置され、これまでに1回開催されている。会議では、ホームの取り組み内容の報告が行われ、民生委員や地域の区長、ご家族の方々からの質問に答える形で行われ、活発な意見が出されているが、開催時期や内容のさらなる充実については検討中である。	○	管理者や介護主任により、会議の開催時期や内容の充実について、外部からの情報収集に努め、より良いものを目指そうという気持ちで検討しているため、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の業務・運営について、町の担当窓口相談することが多く、担当者とも顔なじみとなり、連絡や相談がしやすい関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族がホームへ直接来られて利用料を支払われる仕組みとなっているため、全てのご家族が毎月1回は来訪されている。その際、暮らしぶりや健康状態、金銭管理の状況、職員の異動等について報告し、ご家族からは気づきや希望をうかがうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置すると共に、なんでも言いやすい関係づくりに心掛け、できるだけ多くの意見や要望、苦情等をいただけるよう努めている。いただいた意見等についてはミーティングで検討され、その結果を具体的にご家族へフィードバックしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の補充については、入居者への影響を考慮して、隣接する特別養護老人ホームから、日頃行き来して顔馴染みの関係が築かれている職員を異動させることで、ダメージを防ぐように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間の研修計画が策定され、職員全員参加を原則として行われている。外部研修については、介護主任が内容を検討して参加職員を決定したり、参加を希望する者があれば、勤務調整をして参加させている。研修参加後は資料を回覧しており、内容について職員から積極的に質問する姿勢がうかがえる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームにおいて職員1日体験を行ったり、電話で情報交換や相談等連絡し合える関係が築かれている。また、隣接地区のグループホーム勉強会へ定期的に参加し、交流を図る機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に必ず一度はご本人に見学していただき、入居者の方とお茶を飲みながら話をしたりする機会を作っており、ご本人が納得された上でサービス開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者の役割を決めたり誘導をしたりしなくても、生活する中で入居者が自然と時間や天気を見ながら、それに合った行動をとり、逆に職員へ指示したり仕方を教えたりすることが多く見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に日頃の関わりを通して、今何を思い行動しているのか、どういった暮らしを送りたいと考えているのかを、直接話をしたり、協同作業を行う中で感じ取っている。困難な場合は、アセスメントを取り直し、ご家族からの情報収集も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が入居者・ご家族から聴取した内容を「詳細検討」用紙へ記録し、それをもってケアマネージャー、介護主任、担当職員、他職員で介護計画についての会議を行い、計画立案している。作成後、ご家族に内容を説明し確認している。修正が必要な際は、再度検討し直している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回を目安として計画を見直しているが、状態変化がみられる場合など、必要に応じて見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の通院介助を行ったり、入院・入所時においては手続きまで行っている。また、正月など希望に応じてご家族の元へ外泊できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの入居者個々のかかりつけ医との関係が保てるように、受診時には必ず付き添い、医師や看護師と情報交換を行っている。また、受診後はその日のうちにご家族へ連絡をとり報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの終末期への対応まで考えた体制は取っていないが、重度化や終末期については、入居時よりご本人、ご家族へホームの体制について説明し、今後の方向性を主治医を含め話し合い確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりの中で、職員一人ひとりが入居者に対する言葉かけや態度について、プライバシーは守られているかを意識しながら接するように心掛けている。また記録等については、部外者が簡単に見ることができないように、事務室の棚に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課については特に職員の方で決めておらず、入居者が新聞広告や町内会のお知らせ、さらに外の様子などを見て、職員とも相談した上でその日にすることを決め、カレンダーに書いて実施されている。自分で行動予定を立てない方に対しては、幾つかの選択肢を提案し、その中から選択してもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けについては、職員から動き出す様子を見せなくても、入居者が自主的に助け合い片付けを行っている。食事中はテレビや窓から見える周りの景色を眺めながら話題づくりをし、楽しい雰囲気で行えるように心掛けているが、大半の職員は弁当持参である。	○	共に暮らすということを再度検討され、入居者と職員が同じ物を食べることで、同じ味わいや喜びを感じながら楽しい食生活が送られることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には毎日午後より行われているが、希望があれば入浴時間の変更について、職員の勤務を調整して対応している。入浴拒否されるケースについては、入居者に応じて対応を工夫し促している。時には、ご家族に協力を依頼し、納得した上で気持ち良く入浴が楽しめるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報収集の際、生活歴や趣味・特技、習慣等を入居者、ご家族より聞き出し、それに合った材料を揃えていつでも自らできるように準備を整えている。職員が強制することなく、材料の存在を知らせるだけで、それぞれの役割や楽しみごとが形成されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の行動や表情から外出されたいのかを判断し、戸外へ出かけられるように支援している。散歩時は、畑仕事をしている地域の方と顔見知りになり、会話を弾ませ楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置して人の出入りがわかるようにしてあるため、日中は鍵をかけていない。数名の入居者が、就寝時に自ら居室の鍵をかけていらっしゃる。	○	自ら鍵をかけなければならない原因は何か、不安要因は何か、職員間で検証して、居室の鍵をかけなくても安心して休める環境づくりに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定しての避難訓練を年に2回行っている。特別養護老人ホームが隣接しているため、施設の職員と連携して役割を定め、様々なケースに対応できるように勉強会等も合同で行われている。地域の消防団が車で1分の所にあるため、消防団とも常に情報交換を行い、協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量は毎回記録して管理されており、必要に応じて隣接する施設の嘱託医や看護師にチェックしてもらっている。献立については、隣接する施設の栄養士により管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域ののどかな景色の中で季節感を味わうことができるダイニングがあり、入居者同士また職員とのコミュニケーションスペースとなっている。ホームの中心が吹き抜けで採光が良く、廊下にはいつでもくつろげるソファが配置されており、ゆっくりと時間を過ごすことができる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の趣味や好みが目で見えるほど、それぞれの居室に個性が見られる工夫がなされている。持ち込みの物が多く、居心地良い生活空間を作り上げている。		